

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●C.ルメール騎手が1日8勝および9連対を記録

8月4日(日)の1回札幌4日、クリストフ・ルメール騎手(栗東・フリー)が開催日1日8勝および開催日1日9連対を記録しました。いずれもJRA最多タイ記録で、1日8勝は自身2度目、1日9連対は自身3度目のこととなります。

●北沢伸也騎手がJRA障害通算単独9位となる137勝目をあげる

8月4日(日)の2回小倉4日・第1レースではワンスインアライフが1着となり、同馬に騎乗した北沢伸也騎手(栗東・フリー)は、JRA障害勝利数が通算137勝となりました。これは出津孝一元騎手の136勝を抜き、JRA史上単独第9位の記録です。

●ロジャーバローズらの競走馬登録抹消

今年の東京優駿(日本ダービー/G I)勝ち馬ロジャーバローズ(牡3歳/栗東・角居勝彦厩舎/JRA通算6戦3勝)は、右前浅屈腱炎を発症していることが判明し、8月8日(木)付で競走馬登録を抹消されました。今後は種牡馬となる予定ですが、繋養先は未定です。また2016年東海テレビ杯東海S(G II)などの勝ち馬アスカノロマン(牡8歳/栗東・川村禎彦厩舎/JRA通算42戦7勝・地方4戦0勝)、2016年デイリー杯2歳S(G II)などの勝ち馬ジュヌエコール(牝5歳/栗東・安田隆行厩舎/JRA通算18戦4勝)、2018年京都ジャンプS(J・G III)の勝ち馬タマモブラネット(牡9歳/栗東・南井克巳厩舎/JRA通算37戦7勝)、2017年フェアリーS(G III)の勝ち馬ライジングリーズン(牝5歳/美浦・奥村武厩舎/JRA通算15戦3勝)、2017年ダービー卿チャレンジトロフィー(G III)の勝ち馬ロジチャリス(牡7歳/美浦・国枝栄厩舎/JRA通算26戦6勝)も、8月8日(木)までに競走馬登録を抹消されました。アスカノロマンは鹿児島県湧水町のホーストラスト、タマモブラネットは滋賀県甲賀市の甲賀ファームで乗馬となり、ジュヌエコールは北海道安平町のノーザンファーム、ライジングリーズンは北海道新ひだか町の岡田スタッドで繁殖馬となる予定です。また、ロジチャリスは地方競馬に移籍する予定です。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●北海道のハッピーグリーンが札幌日経オープンで2着に惜敗

札幌日経オープン(3歳以上、8月3日、札幌)に挑んだハッピーグリーン(北海道)は、中団から追い上げてゴール前で先頭を窺ったものの、コバノキッキングに差されてクビ差の2着と惜敗しました。

●コバノキッキングに注目、8月12日のクラスタC(盛岡)

クラスタC(Jpn III、8月12日、盛岡、1200m)は、コバノキッキングとヤマニンアンプリメが双璧、次いでヒロシゲゴールド、ノボバカラ、ラブバレット(岩手)、ブルドッグボス(北海道)、メイショウアイアン(北海道)、アシャカダイキの順に有力視されます。

●ヒザクリゲらが出走、8月14日のサマーチャンピオン(佐賀)

サマーチャンピオン(Jpn III、8月14日、佐賀、1400m)は、JRA所属馬では3連勝中のヒザクリゲ、スマートレイチェル、ナンチンノン、シャインヴィットゥ、グランドボヌールという序列になりますが、昨年の覇者エイシンバランス(兵庫)ら地方勢にも一角崩しの可能性があります。

●8月15日のブリーダーズゴールドCはプリンシアコメータが有力

ブリーダーズゴールドC(Jpn III、8月15日、門別、2000m)は、昨年2着の雪辱を期すプリンシアコメータが中心、以下アンデスタイン、ビスカリア、クイーンマンボ、3歳馬ラインカーナまでが争覇圏内と考えられます。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1ナッソーS~ディアドラが快挙達成

8月1日にイギリスのグッドウッド競馬場で行われたG1ナッソーS(3歳上牝、芝1980m)でディアドラ(5歳、父ハービンジャー、栗東・橋田満厩舎)が優勝。日本産の日本調教馬として史上初めてイギリスのG1を制しました(日本調教馬のイギリスG1制覇は米国産馬のアグネスワールドによる2000年のG1ジュライC優勝以来2度目)。O.マーフィー騎手が手綱を取ったディアドラ(7番人気タイ)は道中9頭立ての7番手を追走。最後の直線で内から力強く末脚を伸ばして、逃げ粘るG2マルレ賞の勝ち馬メダレーを交わして1馬身 $\frac{1}{4}$ 差で優勝しました。G1仏オークスを勝って臨んだチャンネルは7着、今年のG1英1000ギニーとG1愛1000ギニーを制し、1番人気に推されたハモースは9着でした。

●G1ホイットニーS~マッキンジーが人気に応える

米国ニューヨーク州のサラトガ競馬場で8月3日に行われたG1ホイットニーS(3歳上、ダート1800m)は、M.スミス騎手が騎乗し、単勝1.85倍の1番人気に推されたマッキンジー(牡4、父ストリートセンス、B.バファート厩舎)がハーツクライ産駒の日本産馬ヨシダに1馬身 $\frac{1}{4}$ 差をつけて優勝。昨年12月のG1マリブS(ダート1400m)以来、4つ目となるG1制覇を果たしました。